

「よくある質問」 ～信和保育園への就職を考える学生に、よく聞かれる疑問についてお答えします

Q1 職場の雰囲気はどんな感じですか？

— 年齢層が幅広く、それぞれの考えを尊重して全体の雰囲気は悪くはないと思います（園長調べ）。職場に多様な人がいるのはどんな職業も同じで、信和保育園にも個性豊かな人がいます。アイドル好きがいたり、釣り人がいたり、ワイワイとお酒を飲むのが好きな人とか、陶器祭りに欠かさず行く人や、ホークスの成績に一喜一憂する人がいたり。しかし、『保育』という仕事において、しっかりした責任感という共通項を持っていけば保育園は機能します。子どもたちを笑顔に出来るプロ意識が高い職員がいて、穏やかで幸せな時間が流れる…そういう保育園であればいいと考えます。

Q2 残業時間はどのくらいありますか？

— 基本的にほとんどないと思われれます（園長調べ）。個人情報が多い書類を持ち出して家で仕事をしないで済むように各クラスにパソコンを配布して、可能な限り午睡中に個人記録などを書いています。

夜遅くまで勤務をすることがないように（子どもが少ない）土曜日に職員会議や園内研修を行います。この時には保育をする子どもに対する配置数より多くの職員が出勤するために会議が始まる時間まで溜まった書類を書く時間も出来ます。平日に個人的にピアノの練習をしたり、翌日の保育の準備をゆっくりしようとする職員がいますが園長に見つかると帰されます。

仕事には個人差があり Aさんが3時間で出来ることを Bさんは4時間かかったりします。「そこまで手をかけなくてもいいのに」と思われる保育材料に手をかけ暇を掛け、愛情を込めたいがために家で作り込む人も確かにいます。子どもの笑顔を見たいという保育士のまごころを園長は止める術を知りません。つまり、個人差と熱量差。この差は如何ともし難いものですが、お互いに助け合って出来るだけ残業を少なくしています。延長保育終了後に残ったの仕事、会議はありません。

Q3 ピアノが苦手なんですが…

— “下手っぴい”でも信和保育園で生きている職員はたくさんいます。『ピアノの生音が流れ、弾きながら子どもたちの歌う姿に目を細める保育士』というシーンは、いかにも保育園というものです。多くの卒園児たちがこのシーンの思い出を口にするのは全国共通ではないでしょうか。そのためピアノは以上児の保育室に必ず1台置いてあります。子どもたちの歌声もまた素晴らしいものがあります。それだけピアノは保育の日常で重要な要素になっています。

でも、ご安心。週に3回ほどピアノの先生が来園し午睡中に個人レッスンを受けることが出来るので、さきほどの“下手っぴい”でも年を重ねていけば上達していきます。職員には「保育士養成校に入学した時に初めてピアノに向かった」人も少なくありません。実際に採用試験の時に「弾けません」と鍵盤も叩かず立ち上がり不採用を覚悟した保育士（ピアノ以外に保育士としての魅力があったので採用しました）もいましたが、今では見事にピアノを弾いています。

Q4 給料はどのくらい出ますか？

— 短大出身者を例にします。初任基本給は158,900円。これに初任給調整手当や勤続手当、調整手当、特殊業務手当（保育士）など諸手当がつきます。さらに処遇改善手当Ⅰ、Ⅱ、Ⅲというものがあり、信和

保育園では処遇改善手当Ⅰは若い保育士に不利が生じないように年功差なく一律です。月額 10,000 円と 2 月に一時金として 220,000 円の計 340,000 円（令和元年実績）です。処遇改善Ⅱはキャリアアップのための研修を受けた職員に出るため初年度の職員には出ませんが、こちらは最大で年間 480,000 円出ます。処遇改善Ⅲは毎月 15,000 円です。これから社会保険料や税金、給食費などが差し引かれ個人の銀行口座に振り込まれます。

福岡市は多くの人に保育士になってもらいたく特別な補助金を出しています。奨学金補助最大月額 20,000 円、家賃補助 10,000 円です。保育園独自で家賃補助も出ているので保育園の近くに住む場合は 20,000 円から 30,000 円の手出しで住むことが出来ます。調理員については福岡市からの補助金はありませんが、保育園独自でほぼ同額を出しています。同じ職場の仲間ですから同じ処遇です。

この他に賞与（ボーナス）として年 2 回、合計 4.5 ヶ月分が支給されます。先ほどの処遇改善Ⅰ、Ⅱ、Ⅲですが、処遇改善Ⅰは全員に毎月 10,000 円、処遇改善Ⅲは 15,000 円が支給されています。処遇改善Ⅰの残額の 220,000 円や処遇改善Ⅱ（最高で月 40,000 円）は 2 月に支給されます。最高で 700,000 円にもなるので「第 3 のボーナス」として職員の希望で月々の支払いを抑えて、2 月にどんと支給するようにしています。

Q5 休みはどのくらい取れますか？

— 日曜・祝日は休園日です。年末年始は計 6 日間。これに加えて週休 2 日に近い「8 週 14 休」という指定休があります。1 ヶ月では 3.5 日の計算でこちらは保育園がシフトを決める際に休みも「指定」するものです。勤務年数に応じて有給休暇もあり、その他病気や介護、身内の不幸ごとなどの休みがあります。信和保育園では保育士に多くの世界を見て見識を広げ、子どもたちにそれを伝えて欲しいので、海外旅行などの長期休暇に出来るだけ応じるようにしています。事前に申し出ていけば指定休、有給休暇などをまとめて取れるようにしています。新卒職員にはあまり関係ありませんが子どもがいる職員については、子どもの病気など優先して休めるように配慮しています。“休日こっそり出勤”は園長に追い返されるか、ちょっぴり叱られて出勤扱いになるかします。

Q6 信和保育園の職場で大事なことはなんですか？

— 誠実さだと思います。残業の項で少し触れましたが人間には個人差があります。保育は「生産性」や「到達点」という言葉では決して括れません。一長一短を認め合って誠実に仕事することが職場にあっては大事なことだと考えます。みんなで気持ちよくカバーし合うためにも個人個人の誠実さというのはとても大事な要素になります。

Q7 園長はどんな人ですか？

— 素晴らしい人…という人に過去 1 回だけお会いしたことがあります（妻です。今では別意見のようです）。変わった人…という人には結構出会います。見方は人それぞれですので直接会って確かめて下さい。ちなみに地元の大学を出て地元の新聞社で記者をして、ホークスやアビスパの番記者をやってアトラント五輪（1996 年）の取材もしました。超一流のアスリートと長いこと付き合ってきたので、人間が持つ無限の可能性の素晴らしさを痛感しています。なにものにも縛られない自由な心の強さも知っています。保育園を経営していた父の病気で信和保育園にやってきました。

Q8 信和保育園が他の園と違うところはなんですか？

— 特別に変わった保育園とは思いませんが、40年の歴史の中で特化していったものはあると思います。そのひとつが地域支援への思いで、子育て支援地域拠点事業である「次郎丸中子どもプラザ」の運営を10年間、福岡市から委託されています。コロナ禍で保育園に通う親子の関係もいつもと違ってきています。ましてや保育士と関わることのない親子。見えないところで様々な困難に出会っていることも想定できます。近くに住む方なら園児じゃなくても大事にしないとね…という考え方は職員に定着しています。

Q9 どんな人材を求めていますか？

— 先ほど述べたように誠実な人です。その上で望ましいのは「柔軟な考え方が出来る人」。万物は変化していきます。10年前の機械が使い古されているように、いろんな変化や進化があらゆるところで起きています。古い考え方を捨てきれない人は、進化に気が付かず、気が付かないがゆえのミスを起こすかもしれません。進化に対応できる柔軟かい発想力は、日ごろの気づきにも繋がります。「今やっている保育は正しいのか、意味があるのか、効果的なのか、園児が楽しめているか、楽しめていないように見えるのは内容のせいなのか、自分の未熟さなのか…」。発展や進化、『カイゼン（改善）』は常にその考え方の先にあります。園長が気が付かないような、奇抜であっても、おもしろい発想を持つ人材を常に求めています。